

---

# 方舟と世界樹

遊心

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

方舟と世界樹

### 【Nコード】

N3605I

### 【作者名】

遊心

### 【あらすじ】

異世界 此処からは彼方の様に遠く、また傍らの様に傍にある異次元。

とてつもない規模の核戦争によって大地は汚染された。戦勝国は天に浮かぶ理想の新天地、世界樹へとその居を移し、敗戦国は大地を浄化するプラント、方舟に居場所を置いていた。両者が関りを失って久しく、それぞれが別の存在を半ば忘れかけていた。

不死の命を持った少年と、罪を犯し鳥の姿となった少女のファンタジー。そして、次第に闇に触れる少年と、それを支える少女の終末SFです。

## 序章 捨石

躊躇いは無い 筈、だった。

しかし、迷いは手足の動きを鈍らせ、剣先の震えは宙に不可解な文字を刻んでいた。

彼女以外ならば全員殺せた。助けを請う老人だって、泣き叫ぶ子供だって、それを庇う大人だって殺せた。現に辺りは死体の山だった。死体死体死体死体。未だ彼方此方で仲間が村人を殺している。

血飛沫の水音、骨の碎ける軽音、皮の裂ける快音、肉を抉る雑音。

断末魔、笑い声、悲鳴、嘲笑、懇願。

様々な音が聴覚を支配する。

金臭い血の香りが嗅覚を封じる。

剣の重みが触覚を麻痺させる。

紅い赤い朱い血泉が視覚を覆う。

滴る血肉が味覚を犯す。

封じられた五感の中、第六感が 確かではない何か 警告

する。

目の前にあるモノに注意しろ……と。

「おい、どうしたよ？」

「……ん、あ、ああ」

仲間が肩を揺さぶる。無理矢理袖で目を拭くと、ある程度の視界を確保出来た。

「村人は全殺ししたぜ。……くっくっく、それにしても最高だったなあ」

「何がだよ」

泣き叫ぶ恋人同士を惨殺した話を、いつもの様に自慢げに語る仲間の後を追いかけてようとして 止まる。

村人は全殺ししたぜ、と言った。

では、目の前の彼女は何か？



## 序章 捨石（後書き）

初めまして。雄心と申します。以後、頭の片隅にでも記憶を留めて置いて頂ければ幸いです。

SFとファンタジーという相反したテーマを扱っておりますが、それが二サイドの対立といった感じになっております。序章段階では未だ方舟側も世界樹側も全く分からないと思いますが、それは後々書き進めますのでご容赦を。

交互に話が進む予定です。

では。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3605i/>

---

方舟と世界樹

2010年10月8日23時16分発行